

2025 年国際博覧会に向けて
2020 年代において新しい国際博覧会を行なう意義

橋爪紳也

1 大阪とイベント暦

- 2018 年 明治維新 150 年、大阪府 150 年、大阪開港 150 年
- 2018 頃 百舌古市古墳群世界遺産登録
- 2019 年 ワールドラグビー開催
- 2020 年 東京オリンピック／パラリンピック開催／大阪万博 50 年／鶴見花博 30 年
- 2021 年 ワールドマスターズゲーム開催
- 2020 代 うめきた 2 期開業
- 2025 年 愛地球博 20 年／上海万博 20 年／敗戦 80 年

2 大規模な国際イベントの考え方

- ・イベントとは、
意図的に非日常的な社会状況を生み出し、人間精神を作興、社会主観を変更する事業
 - ・イベント・オリエンティド・ポリシー
イベントは「目標」を達成する「手段」である。
どのような目標を設定するのか？
いかなる「社会主観」を変更するのか？
 - ・社会実験都市としてのイベント会場
 - 1970 年 大阪万博
 - テーマ展示を中心とする会場計画／地域冷房システム
 - 情報の一元管理／サイン、ピクトグラム
 - 民間警備会社による警備
 - 空気膜構造、メタボリズム etc
 - 2010 年 上海世博 緑色世博
 - 閉幕後の都市計画をあらかじめ想定
 - テーマ展示を中心とする会場計画
 - 既存建物のリノベーション
 - 地域冷房システム
 - 電気自動車、LED による社会変革 パーチャルエキスポ
 - 太陽光発電、雨水の再利用、環境モデル都市の展示
- 愛地球博では、駐車場への誘導実験

3 文明の博覧会史観

- ・ 19 世紀後半 産業革命による理想社会を呈示 蒸気機関 鉄・ガラスによる大空間
- ・ 20 世紀前半 電化による理想社会 電気館やイルミネーションが人気
- ・ 20 世紀後半 高度情報化による理想社会 マルチ映像 テーマパークの原型
- ・ 21 世紀前半の万博 文明の持続可能性
- ・ 愛知万博 「21 世紀初頭における新しい国際博覧会」として構想、誘致
サラゴサ博（河川と水資源）、上海（都市）、麗水（海洋資源）、ミラノ（食）、
アスタナ（エネルギー） 参考 2018 年 台北国際演芸博覧会
- ・ 手法
 - 19 世紀～20 世紀前半
「モノ」の展示 「世界」を「世界都市」に集める オリエンタリズム
 - 20 世紀後半～
「情報」の展示 「世界」の多様さと未来を可視化 巨大映像や情報装置
 - 2020 年型の博覧会 ネットや ICT の利活用による新機軸が必要

4 2020年代の新しい国際博覧会に向けて

- ・基本となる考え方
 - ・文明的課題への対応 世界規模の人口爆発、超高齢化社会がもたらす諸課題
 - ・技術シナリオ ICTの活用による新しい展示空間、社会実験の場
 - ・日本の成長産業を訴求 ライフサイエンス、高度医療、コンテンツ
- ・1970年大阪万博の理念の継承 「進歩」と「調和」
- ・2005年愛地球博の発展継承 自然の叡智
 - ・「21世紀初頭における新しい国際博覧会」を進化 2020年モデルとするのか

5 地元基本計画案に記載すべき項目

- ・基本概念
 - テーマ・基本理念・開催意義
 - 基本概念の展開 サブテーマ テーマの展開
 - 2020年代における新しい国際博覧会
 - 2025年に国際博覧会を開催することの意義
- ・会場構想
 - 会場整備
 - 基盤整備
 - 長期的地域整備
 - 環境への配慮
- ・実行計画基本方針
 - 開催主体
 - 参加招請
 - 入場者規模
 - 輸送計画
 - 開催経費
- ・開催効果
 - 国際社会への効果
 - 参加国等への効果
 - 日本への効果
 - 経済効果